

在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習反対全道総決起集会の開催

連合北海道と北海道農民連盟で構成する沖縄米軍実弾演習北海道移転反対対策本部は、15回目となる移転実弾演習を受け、11月21日、釧路市において、「在沖縄米海兵隊の矢臼別移転実弾演習反対全道総決起集会」を約500名の参加のもと開催した。

第1部として、連合北海道元執行委員松浦俊一氏より「連合北海道の平和運動『核兵器と戦争に反対』」と題し、これまでの連合北海道の平和運動の取り組みや矢臼別への米軍移転訓練における対応などについて講演をいただいた。その中で松浦氏は、この経過を踏まえ、今後どういうふうには平和を確立すべきかとし、その手段として「戦争やテロは貧困という問題と表裏一体。貧困問題を解決し、軍事力以外の方策で世界平和の実現をめざすべき。」と提起。また現在の日本の状況について「安保法案が成立し、戦争ができる体制が法的にできてしまっている。体制ができてしまうと、理性が働いているうちはまだ防ぐ方法を考えられるが、いったん理性を失ってしまうと、防ぎようがない。日本人は70数年前、一度理性を失っている。そうならないために、国民が理性を持って声を上げているうちに廃止をしていくことが必要。」と語った。



引き続き行われた総決起集会で、主催者を代表し挨拶にたった連合北海道出村良平会長は「今回の実弾演習に対し、強い憤りを覚える。改めて強く抗議し、直ちに中止を求める。」とし、「演習をやめさせるには、米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本見直しが必要。」と訴えた。また今回の安保法案の強行成立については「なんとしても廃止にし、最終的には安倍政権の暴走を止め、退陣に追い込まなければならぬ。その足がかりを作るためにも来年の参議院選挙は重要。現政権の過半数割れに追い込む闘いにしっかり取り組む。」と決意を述べた。連帯挨拶として連合本部山根木晴久総合組織局長が挨拶にたち「私たちは今後一層平和運動を進めていく必要がある。平和の尊さ、二度と戦争を起こしてはならない、そのことを参加者全員で誓い合い、基地の問題等、世界の恒久平和につながる運動を全国で力強く推進する。」と述べた。

続いて連合北海道皆川洋仁道民運動局長より、訓練の中止や反対を求める打電行動、北海道知事と北海道防衛局等に対しての要請行動等について経過報告をするとともに、安全保障委員会の答弁などを例に挙げ、沖縄県民に大きな負担を強いているのは沖縄に駐留する米軍であり、そして何より日本政府であることを指摘した。

集会アピールが採択されたのち、閉会挨拶として、北海道農民連盟石川純雄委員長は「怒りをもって安保法制に反対する。政府は今後も私たちに不安を与え続ける。それを打破するには来年の参議院選挙で絶対的多数をもって勝つしかない。改めて演習反対、安保反対で連帯して行動していこう。」と力強く訴えた。最後に連合釧路地協佐藤久夫会長による移転演習に怒りを持って抗するとした団結がんばろうによって閉会した。

終了後、参加者は市内をデモ行進し、米軍の実弾移転演習反対や政府の戦争政策を許さないなど、市民にアピールし理解を求めた。

